

# みんなで答えを見つけていく 拡散型漢字ゲーム① 漢字の花火

教育エジソン

## 1) 手順

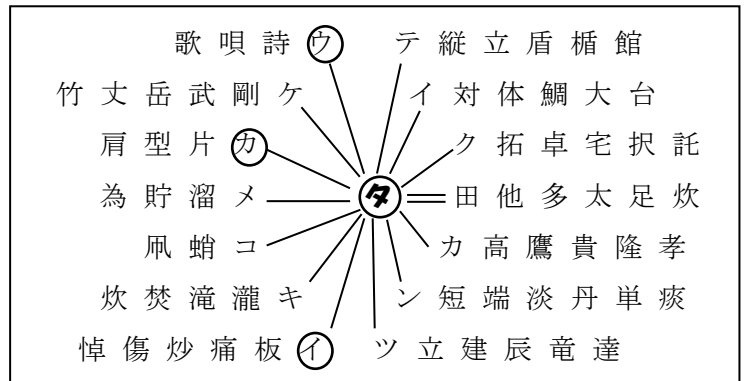
教師が、黒板の中央にカタカナを一文字書き、○で囲んで、右に＝を書く。

生徒はチョークをリレーして、次の3つのいずれかに当てはまる漢字を一つずつ書いていく。

①その読み方の漢字を＝の右に書く。送り仮名をつけた場合の読み方でもよい(例:足、炊)

②中央の字から自由に線を引出してもう一文字加え(タイ、タンなど)、その読み方をする漢字を1つ書く。

③逆にその文字で終わる漢字を思いついたら、頭の字に○をつけて線を引く(イタ、ウタ、カタ)。



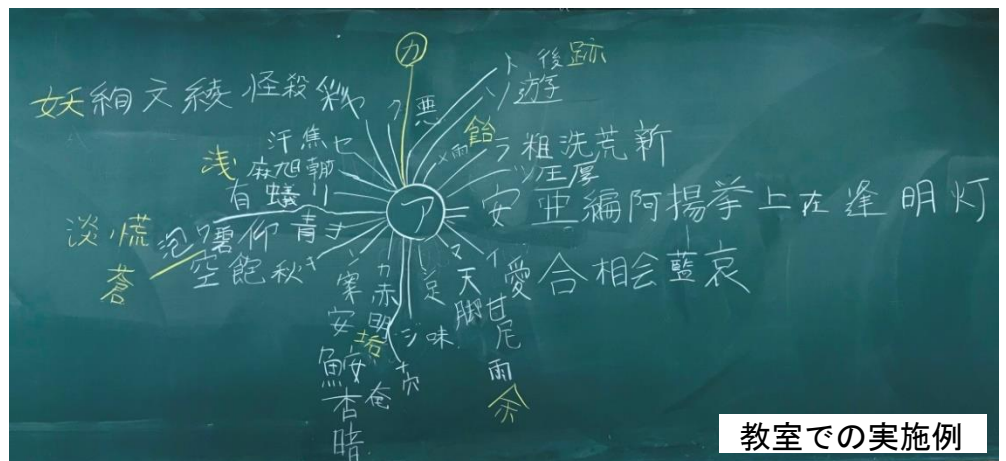
自分の順番が来たら、他の人が書いた文字の隣に同じ読み方の漢字を追加してもいいし、新たな線を引き出して書いてもよい。

生徒が一文字書くたびに、「そうだね、田畑の田」などと、教師が受けるようにする。

音読みは出やすいが、歌、蝸など、一文字で単語になるものはイメージを喚起するので、出てくると、「そうか、よく見つけた!」という感動がある。それを教師がすぐことばにする。

## 2) メリット

通常の漢字クイズやゲームは答えが有限なので、やるうちにどんどん答えが出にくくなるが、これは可能性がどんどん広がるので、参加意欲が高まる。



教室での実施例

## 3) 出題のヒント

○中央のカナによって、

広がりが出やすさが異なる。写真の実施例では、アで終わる字はなかなかない。カア(母)を教師が付け足した。

今のところ、「イ」が最強か。イで始まる字も、イで終わる字も多い。→ 早くからやらずに、生徒が慣れた後で、時間をたっぷり取れるときに実施するとよい。

○2文字で同音異義語が多くできる漢字だとやりやすい。(以下の例)

- カ→ カイ カク カツ カン      コ→ コウ コク コン
- サ→ サイ サク サツ サン      セ→ セイ セキ セツ セン
- ハ→ ハイ ハク ハツ ハン      ラ→ ライ ラク ラン (意外とある)

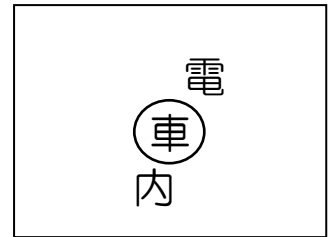
○上述のように、音読みは出やすいが、一文字で単語になるものはイメージを喚起しておもしろいので、それを事前に考えておくと、教師が最後に書き足したとき、生徒のリアクションが大きい。

## みんなで答えを見つけていく 拡散型漢字ゲーム② 漢字の池

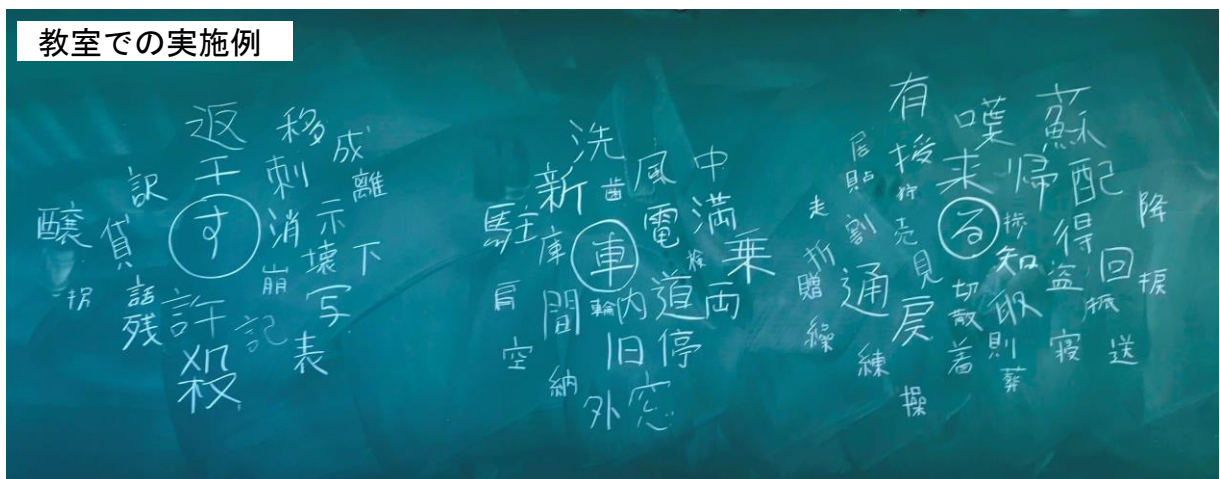
教育エジソン

### 1) 手順

- ①まず、次のような説明をし、イメージさせる。「魚のいる池に、エサをポンと投げると、魚が寄ってくるよね。漢字も似た性質があって、文字をエサとして投げると、漢字が寄ってくる。」
- ②「たとえば……」と言って、黒板の中央に漢字を一文字書き、○で囲む。この場合だと、「車」と書いて○で囲み、その近くに「電」と書く。「これで、『電車』という熟語ができるよね。」
- ③次に「内」という字を近くに書いて、「こうすれば、『車内』という熟語ができるよね。『車』が前についても後についてもいいので、二字熟語ができるように、漢字を書いていこう」
- ④そして、端の生徒にチョークを渡す。生徒はチョークを順にリレーして、一文字ずつ書いていく。魚が寄るイメージなので、エサの周りから埋めて、次第に外へと広がっていく。
- ⑤生徒が一文字書きたびに、「車窓か、なるほど、これは列車の窓だよな」と、教師が受ける。
- ⑥「魚がエサに飽きてきたみたいなら、誰かが、別のエサを投げてもいいよ」と言って、この場合は教師が「る」を書いた。これは送り仮名である。



「ただし、新しいエサを投げるときは、自分でも一文字は必ずつけてね。もちろん、前の『車』だってまだまだ書けるよ」。それを受けて、ある生徒は「す」を書いた。



### 2) 解説

「漢字の花火」と同じ発想で、みんなでたくさん答えを見つけていくゲームが、他にできないかと考えて思いついたアイデアがこれである。

「花火」と違って、出題が無限である。新たな出題（エサ）を生徒自身が出せるので、生徒の参加意識がより高まる。

人、水、力、生、心……など、熟語が多い文字はあるが、よほど特殊な漢字でなければ大丈夫。思い付きで出してみて、反応が悪いと思ったら別のエサを投げればいだけである。「大・中・小」、「赤・白」、「男・女」など、セットになる文字を一度に投げてもおもしろい。送り仮名は、い、し、う、か、く、た、む、え、り、さ……など。